

報告事項サ

平成29年度「外国語教育強化地域拠点事業」研究発表会の開催概要について

平成29年度「外国語教育強化地域拠点事業」研究発表会の開催概要について、別紙のとおり報告します。

平成29年12月27日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成29年度「外国語教育強化地域拠点事業」研究発表会の開催概要について

平成29年12月27日
高等学校課

1 「外国語教育強化地域拠点事業」について

(1) 事業の主旨

小学校英語教育の教科化と、中学校・高等学校の内容の高度化に伴い、各校種段階をとおして4技能をバランス良く系統的に育成していく観点から、教育課程、指導方法、評価方法等の改善について研究開発することをねらいとして、文部科学省から指定された強化地域拠点の学校（以下「研究実践校」という。）において、平成26年度から4年間の指定期間を設けて研究実践に取り組んできたもの。

今年度は、特に各校種段階を通じた系統性のある指導を行うという観点から、やりとりのある「話すこと」の指導に的をしぼり、ルーブリックを活用した指導と評価の改善について、共通実践を行ってきた。

(2) 研究実践校

若桜町立若桜学園小学校
若桜町立若桜学園中学校
鳥取県立八頭高等学校

(3) 具体的な研究テーマ

小学校：新たに導入される文字指導のあり方や数値による評価
中学校：英語で自分の考えを伝え合うことが中心となる授業
高校：教科書本文の要約に意見を付け加えたより高度な言語活動

2 開催概要

研究実践校の成果発表会を開催し、新しい教育課程の内容や実践事例、異校種連携等について広く周知した。

- (1) 開催日：平成29年11月20日（月）
- (2) 内容：公開授業、分科会、全体会、講演会
- (3) 場所：各研究実践校（公開授業及び分科会）
とりぎん文化会館（全体会及び講演会）
- (4) 参加者：県内の小中高等学校の教員を中心に約100名

3 日程及び内容

時間	内容		
	【小学校】	【中学校】	【高校】
公開授業 9:40～ 10:30	第4学年 "This is my favorite place." 盛田 里美 教諭 吉川 智子 教諭 第6学年 "I like my town." 岡村 祐太郎 教諭 マーカス・ジャクソン (外国語指導助手)	第7学年（中学1年） 『イギリスの本』 中村 明彦 教諭 渡邊 千代 講師	第2学年（2クラス） "From Owning to Sharing" 村松 倫子 教諭 松田 裕史 教諭

分科会 10:45～ 11:45	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」「話すこと」の指導の工夫と成果 ・数値による評価法や教育課程における授業時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・「シャトルチャット」等の帯活動の活用 ・身近なことについて自分の考えを伝えるための指導工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な事柄に関して自分の考えを伝える指導工夫 ・言語活動の評価事例及び外部試験結果の分析
	指導助言： 島根大学教育学部 大谷 みどり 教授	指導助言： 東京家政大学人文学部 太田 洋 教授	指導助言： 岐阜大学教育学部 巽 徹 教授
全体会 13:30～ 15:00	テーマ：話すこと（やりとり）の小中高における系統的な指導 基調提案：鳥取大学地域学部 足立 和美 教授 研究発表：校種別の目標と小中高共用ルーブリックによる評価実践 各校種における研究発表（単元の言語活動動画も交えて） 指導助言：岐阜大学教育学部 巽 徹 教授		
講演会 15:00～ 16:45	演 題：「話すこと（やりとり）の力をつけるための授業づくり ～小中高のそれぞれの段階で～」 講 師：東京家政大学人文学部 太田 洋 教授		

4 参加者の感想

小学校英語の新しいキーワードである「small talk」「やりとり」「対話」について大きな示唆をいただきました。具体的な活動や映像がふんだんに取り入れられていたため説得力があり、明日から自分でやってみようという意欲がわいてきました。【小学校】

あっという間の時間でした。いつもしている英語のやりとりを、続けていけばいいのだと自信につながりました。また、中学校でもリテリング活動を取り入れてみたいと思いました。能動的に参加できる講演で、大変勉強になりました。【中学校】

授業と家庭学習の結びつきを考えて授業をデザインしなければならないのは、どの校種も同じ。「楽しい」だけの授業にならないようにするにはどうするか、生徒の自学習習慣を強化することを考えたい。今日の報告と講演会で指摘されたように、やりっぱなしにしないで「繰り返し＋フィードバックを行う」ことを習慣化したい。小中高の教員が一堂に会して意見交換する機会は貴重だと思う。【高校】

5 今後の取組

本県では「教育に関する大綱」の中で、グローバル化に対応した英語教育の推進を掲げ、生徒の英語によるコミュニケーション能力を高めるために、教員研修の充実や生きた英語に触れる機会の提供などに努めているところ。

本事業研究実践校で進めてこられた研究開発の内容は、この大綱の目標の実現に資するものであり、研究成果を県内に広く還元することにより、校種間連携による効果が生徒の英語力の向上となって表れるよう、取組を続けていく。